

中国桂林・貴州訪問記

遠藤 幸絵 (Yukie ENDO 東京スペレオクラブ 東京都在住)

はじめに

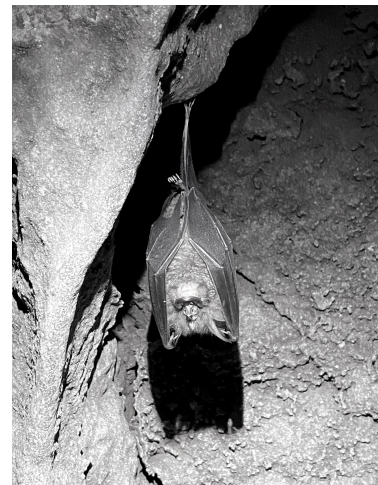
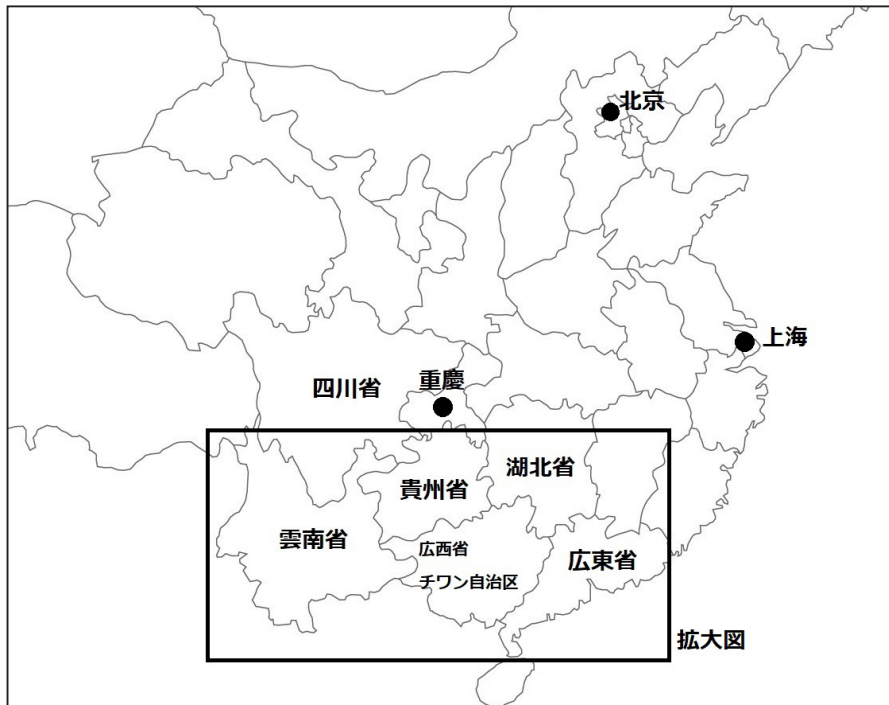
2019年の年末年始休暇を利用し、中国の広西省チワン自治区にある桂林市 (Guilin City)、貴州省にある興義市 (Xingyi City) を訪問した。それぞれが中国の中でも有数のカルスト地域であり、多くの洞窟が存在している。

中国に行ったことがないケイバーでも「ミャオ・ルーム (苗庁)」ならば聞いたことがあるのではないだろうか。今年の2月にNHKでも特集が組まれていた、世界で一番大きなホールである。このミャオ・ルームを持つ洞窟があるのが貴州省である。海外旅行が好きな方なら、広西省チワン自治区の桂林も聞いたことがあるだろう。昔から「桂林山水甲天下」(桂林の山水は天下第一である)と賞賛される漓江周辺の景色は、まさに山水画の世界である。峻険な山々の連なりはカルストタワーである。また、両省に隣接している雲南省といえば、大小様々な奇岩が林立する「石林」も有名である。このように中国南部の雲貴高原一帯は石灰岩が多く含まれ、カルスト地形を形成している。

今回訪問のきっかけとなったのは、昨年まで同クラブで活動していた、ロシア人ケイバーのタチアナが中国へ語学留学したことであった。日本でケイビングに目覚めた彼女は、留学先を選ぶ際も「洞窟がある地域にする」といって、一般的な留学先である北京や上海ではなく、あえて桂林を選択した。生粋のケイバーである！留学の話聞いて早速訪問する計画を立て始めた。ケイビング以外にも、3人でよく登山に行っていた同クラブの黒田さんも同行してくれることとなった。

年末年始休暇は9日間。ずっと桂林に滞在するのめんどりと地図を眺めていると、桂林のある広西省チワン自治区の上には、東京スペレオクラブと縁の深い貴州省がある。

2000年から始まった「峰林プロジェクト」は、日中共同で行ってきたプロジェクトだ。2011年を最後に国家間の問題が続く遠征は行われていない。あれからもう8年も経った。同クラブの後藤さんが、一緒に活動した中国の研究者たちとは連絡を取っているが、他のケイバーの皆は元気だろうか。思い立って連絡したところ、二つ返事でOKをもらい、両地域を訪問することが決まった。



桂林のコウモリ

図1 中国広域図
(出典：中国まるごと百科事典)

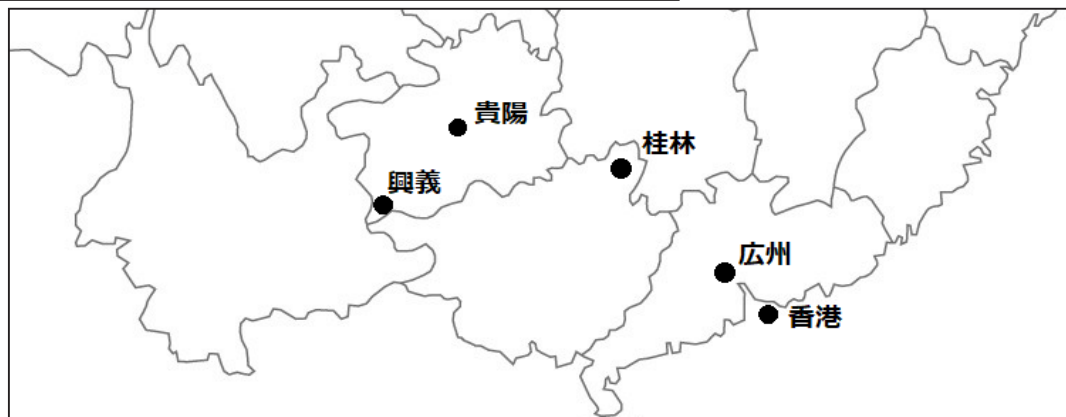


図2 拡大図 (出典：中国まるごと百科事典)